

藻谷浩介氏講演会 「新見の未来を探る」講演録

日時 平成 29 年 9 月 14 日

於 まなび広場にいみ小ホール

作成 新見商工会議所青年部

平成 29 年度総務広報委員会

新見市は一時は5万人を越す人口が3万人を下回るようになり、4町と合併し約4万人弱の町となったが、人口がどんどんと減り続け3万人をまた下回るような事態になってきている。全国的に人口は減っているが、新見市の人口減少は著しい。

しかし、この町には「マジでヤバい！」と思っている人がいる。そう思う人たちがいなければ決して町は良くなっていかない。新見の未来を探るため、現実の数字を元にこの町の状況を見ていきましょう。

1. 「イメージ」や「空気」は事実とは違う

日本での殺人事件の認知件数を例にあげ、会場に集まった方に30年前と現在とでどちらが殺人事件の件数が多いか多数決をとった。結果は半々だった。現実には30年前に約3000人だったものが現在は1000人弱になっている。私たちが思う「イメージ」や「空気」は事実とは違うことを明らかにした。

2. 地域活性化とは何ですか？

交通が便利になることが地域活性化なのだろうか。約40年前に中国自動車道が開通し当時の国鉄が伯備線を電化して振り子電車が走るようにしたのだが、新見は発展したのでしょうか。便利にはなったが人口は増えてはいない。これ以上交通の便を良くするよりも、これ以上工場を増やそうとするよりも、景気が良い悪いと騒ぐよりも人口が減らなくなることを考えなければいけない。若者が戻ってきて、子供が生まれ続けることが大切だ。若者が外へ出て行くのは新見に誇りを持っていないから外に出て行ってしまふ。それにも増して地域の人間が新見に誇りを持っている人が少ないのが問題だ。

3. 失業率が低いのは田舎

岡山県の失業率は大都市圏より低く中間程度、地方の方が失業率は低い。とういことは足りないのは「仕事」ではなく「人手」である。

4. 新見市・岡山市・首都圏・などでいま起きていること

国勢調査を元に2010年から2015年人口変動について説明。岡山市は約10000人の人口が増えているが、子供の数は2700人減り、15歳から64歳の金を稼げる世代が12500人減少している。増えたのは65歳以上の25100人だ。まずはこの現実を知っておかないと新見市の活性化は無い。現実には岡山市はぜんぜん活性化していない。なぜ岡山市の現役世代が減ったのかは3.5万人が15歳を超え現役世代が0.6万人転入してきたが5.4万人が65歳を超えたから約1.3万人減少したことになっている。首都圏でも同じ現象が起きている。

新見市は人口が3210人減少していて、子供の人口が640人減り、現役世代が2630人の減少、65歳以上は60人の増加している。子供と現役世代は30年少々でいなくなってしまう。しかし、65歳以上の人口増加が他の町に比べ著しく少ない。

勝央町も65歳以上の人口増加は少なく、子供の数が増えている。なぜこのようになったのかは町が子育て支援に力を入れているからだ。

全国的な人口減少のなか、人口が増えているところは65歳以上の人口が増えているところがほとんどだ。新見市の現状を踏まえきちんと考えていけば、子供を増やし将来的に人口を維持していくチャンスがある。今の住民が1歳ずつ年を取っていくこと、若者が地域外に出ていってしまうことは止められないが、これまでは一度出て行ったら帰ってこなかった若者たちを工夫しだいで呼び戻したり、子育て世代の支援で出生率を高くできるのではないかな。むしろ前向きにできることでは、子育てしながら前向きに働く若い世代を呼び込めたり、無病息災で天寿を全うする高齢者を増やしたり、来訪・滞在・短期定住する外来者を増やしたりすることができるのではないだろうか。

5. お金の使い方地域が変わる

外へ出ていくお金を減らさなければいけない。そのためには地域の人々が地域内でお金を使い、受け取った人はまた地域内でお金を使うというサイクルが必

要だ。地域の人からお金をもらって、外でお金を使っているようではダメだ。地元で買うと高いという人がいるが、地元で買うことによって色々な恩恵が自分に戻ってきているということを理解しなければならない。

新見市民が年間に消費する額を180万円として、その1%を市内で消費すれば年間で5.4億円が地元で回る。これは給与+福利厚生300万/人の雇用180人分の額になる。雇用が180人増えれば人口は500人ぐらい増える。交通の便が良くなれば良くなるほど、コンビニが増えれば増えるほど、どんどん新見からお金が外に流れて行っています。稼いだお金の1%を地元で消費しましょう。そうすれば人口減少は止まります。

6. 地域活性化の5段階

マスコミで紹介されイメージを良くすることで知名度・話題性をアップすることで、入込客数が増加し、滞在時間が増え客単価が上がり売上増加し、売上が人件費に回ることで地域内に落ち所得が増加し、住民が儲けを貯金せず地域内で使うことで地域内経済の循環が拡大する。地域内経済循環拡大までやらないと意味がない。

7. 子供が増える新見にするには

行政が入学時にランドセルを配るようなことをするのではなく、当事者・現に子育て中の母親の意見を聞くことだ。それに、このようなことは祖父のやることだ。そして、乳幼児の母が仕事を辞めて子育てに専念できるようにするのではなく、何人産んでも働いて稼げる・早期に職場復帰でき柔軟に休める雇用環境を作ることが大事で、父親の育児休暇や学童保育、病児保育や小児科医療の充実が大切だ。

そして子供の増える町にするには皆が結婚し子供を持つような時代に戻していくことを考えるのではなく、子育てをせず頑張っている人達（結婚せず仕事を頑張っている女性や働く男性など）が自分達も子育て支援（税金や職場環境）をしているんだという気持ちを持つことと、子育てをする人はそういう人達に支えられているんだと思う気持ちを持つことが大切だ。

もう新見はダメだと思っている皆さん、強がりでなんとかしようと思っている皆さん、強がりさえ言わなかった皆さん、強く申し上げるのですが同条件の

ところ、もしくは同条件以下のところで人口現象が止まっているところがあるところもあります。

新見もチャンスです。岡山はあと30年は年寄りが増え続けます。皆さんが地元でお金をまわすことを考えて、少しでも意識の高い人を育てて、子育て環境を良くしていけば、誰も評価してくれる人はいないかもしれませんが、そのお陰で地域は活性化するでしょう。ぜひそういう地域づくりをしてください。絶望することは間違いです。これからは皆さんの時代です。

まとめ

本講演会を終えて、新見市として取り組むべき課題の1つとして人口減少対策の取り組みが提起されました。子育て支援に力をいれ、子どもを増やし将来的な人口維持を図ること、地産地消を推進し地域内の経済循環拡大による雇用の確保が解決方法の例としてあげられています。

子育て支援や経済対策など現在においても様々な施策が実施されていますが、依然として減少傾向が続いております。こういった問題を解決していくためには、行政が行う福祉の向上や経営者が行う雇用の確保・労働環境の整備等はもちろん必要となってきますが、最も重要なのは、「誰かがやってくれるから自分にはなくてもいい」という考えではなく、「地域の為に自分のできることから協力していこう」という考えに、地域住民の意識を変えていく必要があると思います。

近年では、鳴滝塾や新見みらいづくり会議など地域と一緒に皆で新見を良くしていこうと多くの団体が活動をしています。そういった活動へ参加することも新見をよくするための一歩になると思います。

新見市の人口は、あと数年もすれば3万人を切ろうとしています。人口減少対策、地域の活性化など問題は多くあります。問題を解決していくためには、我々のような経済団体や行政の努力はもちろん必要ではありますが、地域住民の協力は必要不可欠です。自分たちの世代だけでなく、子どもや孫の世代まで「新見市はこんな良い町なんだ」と誇れるように皆で協力し、より良い新見市を作っていきましょう。